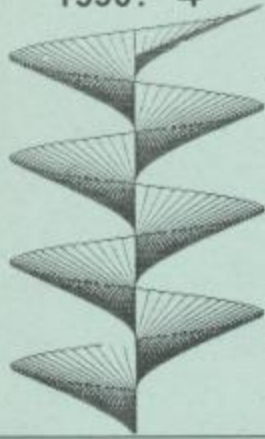


1990. 4



はるかにくす

No. 22

学校法人大阪工大摂南大学図書館報

読書百遍…

最近の本の出版量はおびただしい。専門分野においても極めて多岐にわたって次々に出版されている。一方それにつれて、最近の学生は本を読まなくなった、専門書が売れなくなったなどの声が聞かれる。

昭和20年代から30年代にかけて大学生生活を送った我々の年代頃までは、特に専門分野での我が国における出版物は極めて限られていたこともあって、その少数の本を貧り読み、古書を漁ったものである。また先生も、必ず読むべき本として数冊を教示された。したがって、同世代の人々に、最も強く影響を受けた書物を挙げてもらおうと、共通していることが多い。

現在の本の出版を含めた情報量は膨大である。その点、我々の学生時代よりはるかに恵まれているはずであるが、かえって取捨選択に迷い、読むべき本も絞りきれず、先生の方としても、ごく特異の分野を除いては教示できるだけの量を読みこなせなくなっている。

ところで、本の読みに対する言葉として、素読・音読・黙読・誦読・通読・判読・解読・多読・濫読・耽読・精読・細読・熟読・味読・愛読等々、思いつくだけでもこれだけ挙げられる。さらに、ドクショシヤシヨニシカズ 読書不如 写書ドクショセツニイマシムルハ (写した方が読むよりよく理解できる)、コウボウニアリ 読書切戒在 荒忙ドクショジン (あわてて読むことのいましめ)、カイニモトメズ 読書不求 甚解 (理解できないことがあっても、しばらくおいて、むりに完全に理解しようとする)、読書百遍義自明、読書三到などの言葉もある。これらは本を読むことに対して、先人達が多くの思いをこの言葉にたくしてきたことを物語り、その内容は現在でも真である。そこで私の知人I氏(62才)のお話しをしたい。

建築学科教授

青山賢信



I氏は定年後に文化財の美に引かれ、最近では古建築、中でも民家に強い興味をもたれ、東は東北、西は九州まで自ら自動車で見学を 実行されている。半年ほど前のこと、このI氏に或る庄屋居宅の普請(建築工事)に係わる江戸時代の「普請日用帳」の一部をお貸しした。この普請帳は一般のものとは異なり、大工諸職人の毎日の仕事内容がことこまかに書かれている。私的記録であるから、癖のある筆書きの崩字であり、当て字、誤字は多く、建築用語はでてくるし、しかも虫喰い穴があるときがある。したがって、慣れた人でもよほどの人でないと、すらすら読めるものではない。I氏は古文書も、まして建築もいわば素人である。お貸ししたものの、途中で放棄されるかと思っていたが、最初は1ページ読むのに2～3日かかっていたのが、現在では文書を読みながら直接ワープロに打ち込まれるまでに上達された。しかもそれまでは崩字辞典を片手に、書かれた文字を判読するだけで、内容は二の次で、いわば素読の形であった。しかし最近では、建築用語の理解を深められただけでなく、無味乾燥な仕事内容の羅列であるのに、「先生、最近は大工諸職人の日々の仕事や、その日の体調、顔すら想像されるほど身近に感じるようになりました」との答えが返ってくる。仕事の内容だけを取りあげがちな私にとって、眼を開かされた思いであった。これこそ先人の言葉、「読書百遍義自明」、「読書三到」の結果であろう。

学生諸君、大いに本を読もう。読んで未知へ挑戦しようではないか。

私の『30分間図書館活用法』



工大・ⅡD4

西野英治

午後4時を過ぎた頃、同僚や上司の方が仕事をしているのを横目で見ながら勤務先を出ます。

通学途上ではその日の様々な出来事をふりかえって対応を考えたり、本を読んだりします。

大学に着くと、たいていまず図書館に寄ります。講義まで約30分ありますが、これがなかなか忙しいのです。

まず工業系新聞3紙を見くらべ、技術的動向や新製品を調べたりするのです。ここで面白いのは、各紙の記者によって視点や物の見方がマチマチで、なかには「この人はほんまにわかってんかいな？」という記事まで見かけます。

こうしたことに気付いている人は工大生でどれくらいいるか知りませんが、これがわかればその新聞の傾向（編集方針など）もハッキリ理解でき、より公平な判断が出来ることでしょう。

このことがわかるだけでも図書館に行く価値はあると思います。

こうして得られた知識は、自己の指針となるでしょうし、さらに友人と話し合うのも刺激になるでしょう。我々の年代の人には、討論(?)的なことに苦手な人も多いようですが、慣れてみると実はなかなか楽しいものです。

さて、この新聞3紙だけで約15分程度必要となり、残りの時間は週刊誌などを読みあさります。現在の我々の周りには、様々な情報が錯綜しています。情報のすべてはどだい無理とし

ても、ある程度のことは把握しておきたいものです。

家でテレビを見るのもいいでしょう。しかし、そこには情報のタレ流し、制作者の考えの押しつけなど様々な意図が見え隠れします。このようなメディアに無批判に依存するのは危険ではないだろうか?と思うにつけ、ますますこれからは情報の主体的な選択が重要だと痛感します。

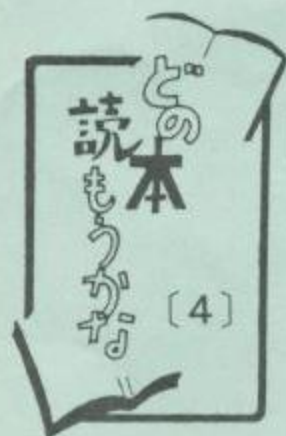
たとえば最初の情報をテレビから得たとしても、最終的には新聞など他のメディアと併せ自分なりの判断が出来るようになりたいものです。

私はⅡ部学生で、仕事を持つハンディ(時間的な)がありますが、誰にでもほんの少しの時間と問題意識さえあれば、安く上質な情報を手に入れることは出来るものです。

わずか30分でもその気さえあれば有効に活用することは可能です。そのためには、あるものは何でもうまく利用してやろうという気持ちが必要です。無い無いと言う前に、既存のものを十分利用し消化する努力も必要ではないでしょうか(少し皮肉かな?)

以上私の図書館活用法を述べましたが、他にもビデオやCDなど利用価値の高い資料も入っているようです。

とにかく、百聞は一見になんとやらとの言葉もあります。とくに新入生諸君など一度図書館をのぞいてみられては?!



『約束の国への長い旅』

篠 輝 久 著

(リブリオ出版)

ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサは、「日本は貧しい国です」「物があまっているのに心が貧しい国です」と言ったそうです。情けないことですが、よく言われることです。しかし、日本人にも、かつてはこの本に紹介されている

ような、ノーベル平和賞に匹敵するような人もいたのです。こういう人がいてくれたということは、貧しいぼくたちの心を勇気づけてくれます。

この人は、いま話題のバルト3国がソビエトに併合される直前の1939年に、リトアニアの領事になりました。そしてナチス・ドイツのユダヤ人狩から逃れてきた人びとに、人間愛の立場から、日本通過のビザを大量に発行しました。そして多くのユダヤ人たちを死の収容所から救ったのです。が、そのことは日本政府の命令に反したことであり、この人は帰国後、外務

省を追放されることになります。

ところがその処分は、なんと戦後の民主主義の世の中になってから行われたのです。

しかし、イスラエルのエルサレム郊外の丘には、ユダヤ人を助けた人たちを記念して、杉の木が植えられており、そのうちの1本には「ミスター・センボ・スギハアラ。カウスで、1600

人のユダヤ人を助けた日本人領事に感謝をこめて。」と書かれています。センボ・スギハアラとは杉原千畝（ちうね）さんのことです。

この本は、人間にとってもっとも大事なものが「愛」であり、それを行う「勇気」であるということであらためて教えてください。

〔配架場所：第1図書室青年期コーナ〕(S.K)

シリーズ『淀川ぶらり散策』

第13話「大阪城 その3 錦城復興」

浅井 三千治

春4月、花は今まさに盛りである。淀の川面に映る大阪城は、過（よ）ぎる船の波を受け、しばしぐずれ、乱れるが、やがて咲き誇る桜の花びらの中に、再びその美しい姿を現わす。

天正11年（1583年）太閤秀吉によつて築かれた大坂城は、別称「錦城」とも言う。

戦乱に明け暮れた「なにわ」の地に築かれた、黄金色に燦然と輝く天守をいただく城の出現は、当時の人々を驚かせた。そのさまは、「その規模、雄大にして豪華壮麗、五層八重の高閣は、金蔭白壁と相映じ——最上層は、黒漆塗りとして、勾欄廻縁をめぐらし、その上下には舞鶴の絵画、伏虎の彫刻を配し、屋上高く金鯨を載す——屋根瓦には金箔を飾し——」とあるように、華やかな錦の姿を「なにわ」の空高く、浮かびあがらせたのであった。このように、豪華絢爛さを誇った大城城も、「大坂夏の陣」の豊臣家滅亡とともに、灰燼に帰し、その後、徳川家によって立派に再建されたが、寛文5年（1665）には落雷によって天守を焼失してしまった。以来、大坂城には長い間天守がないままとなり、また明治維新の際に、戦火によって城内の主な建物も燃え落ち、城は荒れ果てた無残な状態となっていた。

昭和天皇の即位の大礼が行われた昭和3年に至り、大阪市ではこの御大礼を記念して、市民の寄附金によって、大阪城の天守復興計画が持ち上がった。しかし時代はあたかも、前年の金融大恐慌のあおりを受け、大不況の真只中であり、募金は困難を予想されたが、「太閤さんが築き合ったお城」を再建することによって、不況を吹っ飛ばそうという大阪市民の熱い期待が集まり、目標額150万円は、わずか半年ばかりの間に、またたく間に達成されたのであった。

この基金を元に、2年8ヵ月の歳月を費やして、黒田家に伝わる「大坂夏の陣図屏風」を参考に再現がはかられ、昭和6年11月7日、鉄骨鉄筋コンクリート造りの五層八階、エレベータ付きの現大阪城天守が、見事に復興されたのであった。

この復興の模様は、設計にあたった大阪府建築課技師・古川重春氏の「錦城復興記」（当館玉置文庫・川口文庫所収）に詳しい。

そして、この天守復興事業の付帯事業として大阪城公園が同時に設置されることとなり、同月10日に開園されている。

このような大事業が可能であった背景には、市民の中に根強くあった太閤人気があった。

徳川家康によって滅ぼされた豊臣家ではあったが、徳川幕府による出版規制や、徹底的な弾圧にもかかわらず、太閤秀吉の人気は根強く生き続け、大政奉還が行われ、明治の時代を迎えるや、徳川時代、東照大権現と崇められていた家康は、朝敵として扱われ東照宮が廃せられる一方、代わって秀吉が復権してきたのであった。

そして、列強諸国に追いつき追い越せと、富国強兵策をとる明治政府の方針ともあいまって朝鮮出兵を行った秀吉の名は、海外進出の先覚者として高く評価されるようになり、次第に国民的英雄として扱われるようになった。(次頁に続く)



さらには明治の終わりから大正にかけて、家康を狸おやじとして徹底的に悪者のイメージで扱い、猿飛佐助や霧隠才藏等、真田十勇士のめざましい活躍ぶりを描いた立川文庫の大ヒットは、太閤人気をますます高揚させたのであった。

昭和が終わり、平成の時代となり天皇即位の大礼が今年に行われるが、今大阪城は周りをツインビル等の高層建築物に囲まれ、往時の雄大さも華やかさも無い。ただ静かに、その美しい

姿を淀の川面に浮かべているだけである。

*「大阪」の「さか」の字について、標題は、現代の用法に従い、「阪」を用いています。しかし、明治以前までは「坂」の字が一般的であり、文中、明治以前にかかる部分では、「坂」の字を用いました。

第13話 「大阪城 その3 錦城復興」 完

(中央図書館)



新入生諸君、ご入学おめでとう。入学式の日、あのトレンドイカータイプの学生証を手にした諸君は、いよいよ工大生になったのだなという実感を新たにされたことでしょうか。

ところで、その学生証に「図書館利用者番号」という6ケタの番号が記載されていたことにお気づきでしょうか。この番号こそ諸君と図書館とを結びつけるホットラインなのです。諸君は学生証さえ持参すれば、いつでも図書館を利用でき、図書の貸出を受けることができます。

さて、ここで諸君に図書館の“自己紹介”をしておきましょう。

私の名は「大阪工業大学中央図書館」、住所は正門前左手。容姿はいたってスリムで、レンガ色のシャレタ洋服がバッチシ決まっています(と皆さま おっしゃってください)。たいそうな資産家で、のべ約4000m²(4LDKマンション50室分)に及ぶ館内各室と33万冊にのぼる図書資料を保有しています。性格は気どらず、やさしく、きわめて開放的。どなたにも気軽にご利用できます。館員は親切で、サービスをモットーとしています。

営業内容を紹介しますと、まず図書の館外貸出。通常3冊以内、2週間(延長希望の際は、通算4週間)まで借りれます。借りたい本が貸出中のときは、返却次第借りれるよう予約する

編集後記

関西が久々に元気を取り戻している。

新関西国際空港、りんくうタウン、大阪テクノポート、六甲アイランドなどウォーターフロント計画を核として多数の注目プロジェクトが進行中だ。内需拡大に乗って、関西経済界も意気軒昂。おりから「花博」も開催され、活況に文字どおり“花”を添えている。

この辺で大閤さん以来の伝統を思いおこし、あの「錦城復興」の意気込みで、「東京なんぞに負けへんで〜」といきたいもの。(P.Q)

こともできます。

また、所蔵しない図書は、希望により購入できる制度もあります。

貸出可能な図書は第1図書室(3階)に開架(自由に手に取ることができる)している約5万冊のほか、閉架式の保存書庫(求めに応じて館員が取り出します)に所蔵の物を加えると、ゆうに十万冊を超えます。さらに、姉妹校の摂南大学や高等学校の図書も相互利用により貸出が可能ですので、すべてを合わせると利用可能図書は文字どおり膨大な数に達します。

これらの図書の大半は、コンピュータにより情報管理がされており、館内設置の端末機で自由に検索することができます。

第2図書室(3階)には、各種の事(辞)典や便覧、年鑑、ハンドブックなど多数の参考図書が、また2階の雑誌室・書庫には約1200種の学術雑誌が配架されており、自由に閲覧することができます。(ただし、貸出はできません)

この他、新聞に娯楽雑誌、カセットやビデオCD、レーザーディスクなどのAV資料や機器が配置され、多様な情報収集活動へのサポートをしてくれます。

このように中央図書館は、大阪工業大学の知識の宝庫として、今日の情報化社会の拠点となっております。

新入生諸君を始め多くの皆様の活発なご利用を心からお待ちしております。(奉仕係)

学校法人大阪工大摂南大学図書館報

No.22 (1990.4)

編集発行 大阪工業大学中央図書館

〒535 大阪市旭区大宮5丁目16番1号

TEL 06-952-3131